

第1回「外航海運税制に係る有識者検討会」

日本商船隊の国際競争力の強化に向けて

令和8年7月17日

日本 IBM 株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
第二営業本部長 兼 パートナー事業部長
常務執行役員
榎並友理子

グローバルにおける競争が一層激化する中、我が国海運業が持続的に発展していくためには、価格面のみでの競争ではなく、運航の効率化、安全性の向上、安定輸送の確保、環境負荷の低減等の総合的な付加価値を高め、国際市場において選ばれる競争力を確立していくことが重要である。

【AI等のデジタル技術の活用による国際競争力の強化】

・世界単一市場で熾烈な競争が行われる海運業において、日本の海運企業が国際競争力を維持・強化し、我が国の経済活動や国民生活を支える海上輸送を安定的に確保していくことが不可欠である。

・そのためには、AI等のデジタル技術を活用し、船舶運航における意思決定の高度化、運航の効率化、安全性の向上、燃料消費の最適化等を進めることが重要である。例えば、商船三井とIBMは共同で、船舶運航に関する多様なデータを活用し、運航現場における迅速かつ的確な判断を支援するAIプラットフォームの共同開発に取り組んでいる。こうした取組は、熟練者の知見の可視化・共有、オペレーションの標準化・高度化、人的負担の軽減等にも資するものであり、海運企業の生産性向上や競争力強化に結びつくものと考えられる。

・加えて、AIの活用は、単なる業務効率化にとどまらず、運航品質の向上や安定輸送の確保、さらには環境負荷低減への対応にも資する可能性がある。

・このような先進的な取組を業界全体に広げていくために、海運分野におけるAIやデジタル技術の導入取り組みについて、税制上のインセンティブを講じることも検討に値するのではないか。

参考)

<https://jp.newsroom.ibm.com/2026-07-01-mitsui-osk-lines-ibm-japan-joint-development-ai-platform-vessel-operations-decision-making>

【経済安全保障と船種】

- ・ 資源に乏しい我が国にとって、外航海運は極めて重要である。
- ・ この観点において、原油や原油製品を輸入するためのタンカーや、石炭・鉄鉱石等を輸入する

ためのばら積み船など、資源の輸入に使う船種が経済安全保障上重要であることは明らかだ
と思うが、一方で、例えば自動車運搬船については、我が国の基幹産業である自動車産業の国
際競争力や輸出基盤の維持という観点から重要性を有するものの、資源輸入を担う船種とは
経済安全保障上の位置付けが必ずしも同一ではないのではないか。

- ・ このため、船種ごとの役割や重要性を丁寧に整理した上で、その違いに応じた税制上のインセ
ンティブの在り方なども検討に値するのではないか。

[日本人船員の確保]

- ・ 経済安全保障上、日本人船員の安定的に確保、育成していくことは重要である。
- ・ 私は、中央建設業審議会の委員として、建設業における職人を確保するため、標準労務費の導
入に取り組んできた。
- ・ 建設業における「標準労務費」とは、技能者の適正な賃金水準を確保するため、工事契約や見
積りの前提となる標準的な労務費の水準を明確化し、受発注の過程において必要な労務費が
しわ寄せされることを防ぐための考え方である。これにより、賃金の見える化を進め、技能者
に適正な処遇が行き渡る環境を整備しようとするものである。
- ・ 海運分野においても、日本人船員について「標準的な労務費」という考え方を導入し、一定の
基準を満たす賃金水準を明確化するとともに、その水準の確保に取り組む海運企業に対して
税制上のインセンティブを講じることも検討に値するのではないか。

以上